

MOZART

Wolfgang Amadeus

久元 祐子

「モーツァルト いま むかし」

国立音楽大学と立川市の「連携協力に関する協定」の締結を記念して始まった特別な演奏会。
ウィーンのを伝承を今に伝える名器ベーゼンドルファー、そしてモーツァルト時代のピアノフォルテ(復元楽器)。
歴史的楽器の演奏にも定評のある久元祐子の3台の弾き分けも聴きどころです。
“モーツァルト いま むかし”、それぞれの音色の聴き比べをお楽しみ下さい。

第1部

モーツァルト 久元祐子のレクチャーコンサート

フォルテピアノ
(ヴァルター・モデル、シュタイン・モデル使用)

- ◆ ピアノソナタ イ長調 KV331
「トルコ行進曲付き」
- ◆ 幻想曲 ニ短調 KV397
- ◆ ロンド ニ長調 KV485 他

© Gakken Pub.



第2部

モーツァルトピアノコンチェルト (ベーゼンドルファー使用)

【出演】今村 能(指揮) 久元 祐子(ピアノ)
フィルハーモニア多摩

- ◆ ピアノ協奏曲第23番 イ長調 KV488



ピアノ：久元 祐子



指揮：今村 能



管弦楽：フィルハーモニア多摩

2015

3.20(金) 19:00開演
[18:30開場]

たましんRISURUホール
(立川市市民会館) 大ホール

全席指定

大人／¥1,000 (ムーサ友の会会員¥900) 小・中学生／¥500

※未就学児のご入場はご遠慮下さい。
有料的託児サービスがございますので、ご利用ください(要予約、定員あり)。
※車椅子使用者のためのお席があります(定員あり)。

【チケット取り扱い】

たましんRISURUホール1階窓口 TEL042-526-1311 (9:00~20:00)
財団オンラインチケット <http://www.tachikawa-chiikibunka.or.jp>
※国立音楽大学でのチケットのお取扱いはございません。

久元 祐子「モーツァルト いま むかし」



YUKO
HISAMOTO



CHIKARA
IMAMURA

久元 祐子 *Yuko Hisamoto, piano*

東京藝術大学音楽学部器楽科(ピアノ専攻)を経て、同大学大学院修士課程を修了。

知性と感性、繊細さとダイナミズムを兼ね備えているピアニストとして高い評価を受けている。読売日本交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、日本フィルハーモニー交響楽団、新日本フィルハーモニー交響楽団、神奈川県フィルハーモニー交響楽団などのオーケストラと協演。ベルリン弦楽四重奏団、澤クアルテットとの共演など室内楽のコンサートにも多数出演。歴史的楽器を使っの演奏会や録音にも数多く取り組み、それぞれの時代の中で作曲家が求めた響きと美学を追い求めている。

2010年のショパン生誕200年記念年には、全国各地でブレイエルの演奏会を行い、大賀ホールでは、天皇皇后両陛下ご臨席の下、御前演奏を行う。

2011年、ウィーンのベーゼンドルファーザールにおけるリサイタルは絶賛され、オーストリアのピアノ専門誌「ヴァインベルガー」の表紙を飾り、ベーゼンドルファー・アーティストに選ばれる。

2012年・2014年、イタリア・ロヴェレト国際モーツァルト音楽祭に招かれ、リサイタルを開催。その模様はイタリア全土に放映され好評を博す。

2013年、国立音楽大学楽器学資料館ピアノ・プロジェクトの一環としてモーツァルト、シューベルト、ショパン、リスト時代など5台の歴史的楽器を使ったレクチャーコンサートを開催。

2014年、同プロジェクトとしてサントリーホール(ブルーローズ)にて開催された「黎明期のピアノ」に出演。ショパン時代のブレイエルなど歴史的楽器を演奏。

CD10枚をリリース。《ハイドンとモーツァルト》(コジマ録音)は、毎日新聞CD選に選ばれる。また、演奏経験をもとに著作にも取り組み、「モーツァルトのピアノ音楽研究」(音楽之友社)、「モーツァルトとヴァルター・ピアノ」(学研)などを刊行。

国立音楽大学准教授。

久元 祐子 ウェブサイト <http://www.yuko-hisamoto.jp/>

Chikara Imamura, Conductor 今村 能

2013年ポーランド文化功労章受章。ウィーン・ムジークフェライン大ホールでベートーヴェンの命日に第9交響曲を指揮。ポーランド国立歌劇場、クラクフ・フィルハーモニー客演指揮者。

1954年生まれ。国立音楽大学卒業。桐朋学園大学指揮科研究生修了。ヘルベルト・フォン・カラヤン、ミラン・ホルヴァート、フランコ・フェッラーラ、小澤征爾、秋山和慶、尾高忠明、高階正光の各氏に師事。

77年ベルリン・フィルを指揮し、カラヤン・コンクール・ジャパンに入賞。

78年カラヤン氏の招きでザルツブルク・ベルリンに留学。80年ザルツブルク夏季講習会にて修了コンサートを指揮。80年イタリア・カンテリ国際指揮者コンクール・ベスト4。ミラノ・スカラ座管を指揮。83年フィテルベルク国際指揮者コンクールで1位優勝。ポーランド国立歌劇場賞受賞。

以来、ワルシャワ・フィル、ポーランド国立放送響等ポーランドの主要楽団を度々指揮。イタリア放送響、ウィーン・フィル木管合奏団、リトアニア国立響、ヘルシンキ・フィル等、欧米最高峰の楽団を多数指揮(世界12ヶ国34楽団)。日本でも、N響、読響、大阪フィル等、全国24もの主要楽団を客演指揮。新楽団の創設にも尽力し、ワルシャワ響(84年・05年)、オーケストラ・アンサンブル金沢(88年・90年)、東京ハルモニア室内管(90年・96年)等、設立時の指揮者を歴任。一流楽団に育成する手腕には定評がある。

96年より国立音楽大学オペラ研究会指揮者。99年より「ポーランド国立ウッチ歌劇場指揮者」。02年より日本人初のワルシャワ・ポーランド国立歌劇場「常任指揮者」に就任。08年と10年2月にはポーランド国立歌劇場・在ポーランド日本国大使館共催「日本の夕べ」を指揮し両国の文化交流にも貢献。

09年イタリア・ベルギー・ポーランド共同制作「サムソンとデリラ」音楽監督。

イタリア・スボレート歌劇場、ミラノ・スカラ座をはじめ世界屈指のオペラ劇場で指揮。現在、尚美学園大学客員教授、国立音楽大学指揮法講師、多摩フィルハーモニア協会音楽監督、日本ルトスワフスキ協会会長。世界を舞台に活躍中。

今村 能 ウェブサイト <http://www.www7b.biglobe.ne.jp/~chikara/>



フィルハーモニア多摩 (多摩地域の皆様のためのプロフェッショナル・オーケストラ)

多摩地域の皆様のご要望にお応えして、国立音楽大学卒業生を中心にした音楽を熱烈に愛する専門家達により、2004年に結成される。Fil=熱愛する、Harmonia=和音・調和・音楽。欧米で活躍する音楽家、欧米留学から帰国した音楽家、その弟子達がメンバー。

今村能音楽監督の下、地元根ざし質の高い音楽を多摩地域で提供する事を目指す。今までにイェルク・デームス、中村紘子、坪田正機、大岩千穂、田中淑恵、秋山理恵、佐竹由美、菅家奈津子、牧野正人、黒田博、辻 秀幸、若林勉他、藤原歌劇団や二期会の卓越した音楽家達と共演。

立川市市民会館、稲城市立iプラザ、パルテノン多摩での定期演奏会、ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポン、東京オペラシティ・アーツシャワー 2011、多摩音楽祭前夜祭、多摩フェスティバル・コンサート、スローカー・トロンボーン四重奏団演奏会に出演。2012年歌劇「ナブッコ」公演、2013年第9回フィテルベルク国際指揮者コンクール入賞記念コンサート、2014年「魅惑のポーランド音楽をあなたに!」のコンサートで好評を博す。

フィルハーモニア多摩 ウェブサイト <http://homepage3.nifty.com/tama-fil/sub1.html>



1788年シュタイン・モデル

(ズッカーマン製作)

1795年ヴァルター・モデル

(バトロゼリ製作)